

平成23年度 生活創造大学 スローライフ科提言

私たちスローライフ科では、「みなおそう！知恵と工夫」をテーマに、全員で色々意見を出し合い、一年間のカリキュラムを組みました。

衣、食、住と、毎日の生活に欠かすことの出来ないものばかりの中から、各講座ごとに責任者を置き、講師さんの選定から当日の準備までと大変でしたが、各回楽しみながら学習して参りました。その中から予期せぬ事、自然災害。人と人との絆を思うとき、今一度、私たちの知恵と工夫でより住みやすい、心豊かな多可町になればと、次の2点を提言いたします。

1. 地域で出来る防災訓練の取り組みを

私たちは第3回目の公開講座におきまして、「さあ大変！えらいこっちゃ～有事の生活工夫あれこれ～」と題し、県広域防災センター防災教育担当の田中氏より、地震、津波など自然災害の恐ろしさを、自身の経験を交え聞かせていただきました。

いざというときに、まずは自分の身の安全を確保しますが、次に家族、そしてお隣は？避難場所は？避難経路は安全なのか？等々不安がいっぱいです。

そこで今、防災について町と住民が一体になって、もっと真剣に取り組む機会を、作ることが必要ではないかということです。

一人ひとりが「いざ」という時に備えるべきマニュアル作りをすべきと思います。

1) 地域で出来る防災訓練の取り組みを

その1. 各家庭で命を守る防災会議を

その2. 避難場所・避難経路のマップ作り

その3. 地域の要保護者の見守りチームづくり

2) 多可町各地の災害復旧について

台風や集中豪雨により被害を受けた箇所が未だ復旧工事が遅れております。豪雨による河川被害、土砂の入った田畑、山崩れなどがまだあちこちで見受けられますが、住民にとってはこの上もなく不安の毎日です。

一日も早い復旧を望みます。

2. 中高年パワーを発揮していきいきサロンや交流会を

第5回の「極上の田舎満喫！宿場町智頭」を訪ねて、と、第6回の講座「めざせ！こんにやく美人」の中から、手作り生活を楽しむことの素晴らしさに気づくことが出来ました。

少子高齢化、各家庭の家族構成もずいぶんと様変わりし、核家族化が当たり前のようになってきました。今後、空き家と共に休耕田や畑も増えていくことと思います。また行政改革に伴っても、廃校（園）により空き施設が出来る様子です。

そういった空き家や空き施設を使って、中高年者が中心になり老人や若者、子どもと祖父祖母と、誰もが気軽に集える交流の場所的な利用方法はどうでしょうか？

そこに行けば人に会える。会話があり、情報があり、そしてお茶なども飲めるという”サロン”の開設です。

休耕田畑での野菜作りや花作り。子ども達や若者は米作りや野菜の作り方もよく知りません。パワーある中高年の方々には土作りから種まき、そして収穫の喜びを。農業の楽しさと共に旬の野菜のおいしさを伝える「育てる楽しみ」「作る楽しみ」も提供します。

そしてこのサロンから、地産地消の夢を持ち、安心安全な食生活を発信し、田舎暮らしの豊かさ、人と人との絆を育み、健康で心豊かな「多可町」へと発展していくことを願っています。